

## ごあいさつ

理事長 川上 貢

このたび当協会として会誌を刊行することになり、その第1号をここにお届けするはこびになりました。当協会が財団法人として発足したのが昭和30年のことですから、今年で46か年を数えることになります。京都大学工学部建築学科は当時5講座からなり、森田、坂、村田、棚橋、前田の各教授を中心に運営されていましたが、昭和28年に新制大学院が発足したばかりで、学科の学生定員が20名（実員30名）のささやかな規模のころでした。協会の発足当初には上記の5人の教授が理事に就任されています。

協会設立の目的は建築技術に関する研究調査を行い、あわせて建築技術の研究を助成し、その発展を図り、もって建築文化の向上発展に寄与すること、その目的を達成するために、教室の研究助成、建築技術に関する（1）調査および研究並びにそれらの受託または委託、（2）研究助成、（3）文献の刊行、その他の事業を行なうことを「寄付行為」に規定されています。

協会の事務所は、はじめは学科内の研究室棟をあてられていましたが、昭和39年に教室の新館が完成し、その地下室に移動しています。その後一時吉田河原町に移り、そして昭和48年に現在の田中関田町に舎屋ビルを新築、移転して今日にいたっています。なお、分室は鳥取市内に早くに設置され、ついで東京都内にも設置しています。

事業内容については別記の事業報告にゆずることにしますが、部門編成の上で研究部門と事業部門の別をたてていて、この近年は事業部門の受託が増加していて、研究部門の受託を大きく上回る傾向がつついています。

本誌を通じて、協会のこれまでの業績のうちから主要な作品や研究成果、現状における事業の内容もあわせて紹介し、協会へのご理解を深め、関心を高めていただければと存じます。

この会誌を刊行したいという計画は早くからありましたが、なかなか具体化しませんでした。日常の業務に追われ、会誌を編集・刊行する余裕がつかれなかったこともあります。刊行への意欲や条件が十分ではなかったこともあったのでしょうか。どのような会誌に仕上げるのか、編集会議で検討を重ね、意見を出しあってまとめる上に編集担当者の慣れない苦労があったようで、感謝したいと思います。回を重ねていくあいだに、紙面も内容も是正し、充実させていきたいと存じます。なお、会誌の発行は当分のあいだ年2回を予定しています。

本号をご一読いただき、ご意見、ご要望をおきかせいただければ幸いです。今後の参考に資したいと存じますので、よろしく願いいたします。